

文芸春秋

11

立川と語ろう 立川に生きよう
November 2005
écoutez bien Vol.24 No.252



写真：五来孝平



畑の稲刈り

こもればの里の作物に、最近よそではあまり見られなくなったものがある。おかほ陸稲。

武蔵野は水が乏しく、湧き水に恵まれた段丘下や

玉川上水から分水を許された農家以外、水田を作れなかった。

水田で作るふつうの稲とは別に、陸稲の餅米が年末の行事には欠かせない。

陸稲はジャガ芋や麦の畝間に蒔く。芋の収穫が終わる頃から大きく伸びる。水田で作っているうるち粳米の刈り取りがすっかり終わった後、陸稲刈りの時期となる。隣の畑では秋蕎麦が白い花をつけていた

稲刈りの要領はふつうの稲と同じ。重く稲穂をつけた株を抱え鎌を回すように刈っていく。涼しくなったとはいえ汗が噴き出す。稲束を稲わらや麻紐でくくり、はさ掛けにして乾かす。お正月のお供えをはじめ、里の〈ハレ〉の日にはこの餅米で餅をつく。

初夏の大麦、小麦、暑い盛りにとれるジャガ芋、麦の畝間に植えたサツマ芋、そして陸稲、蕎麦、里芋、ハツ頭、カボチャ、落花生、胡麻、葱、子どもたちが担当の茄子やキュウリ、トマト。農家は畑を遊ばせない。この冬には水田を大きく拡げる計画。来年はもっと忙しくなりそうだ。



桑元百合子さん（川崎市高津区在住）

土いじりが好きでこのボランティアに参加しました。戦後の食糧難にすいとんや芋の蔓の雑炊を食べた世代。いま作っている伝統的食は当時に比べたら豪華ですね。緑の中で一日過ごし毎回新鮮な汗を流しています。

小さいけれど進化の頂点に立つ魚なんです



於：錦町 TEAM BORNEOで 写真：五来孝平

熱帯魚を通じてボルネオの環境を考える 季子 宏之さん

■季子宏之（きし・ひろゆき）／小金井市生まれ。少年時代に暮らした北海道で自然に親しみ、20代で始めた熱帯魚飼育からボルネオ島で貴重な野生種の採取を始める。立川・錦町のビルに飼育場所を兼ねた週末だけの店「TEAM BORNEO」を開き、珍しい熱帯魚を通じて、現地の自然保護を考える活動を行っている。

■芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

芳賀 うわあ、すごい水槽の数ですね。何種類くらいいるんですか？ 熱帯魚だけじゃなくて、雑貨もある。

季子 今は30種くらいですかね。雑貨は僕が好きなので、向こうに行ったついでにあちこちで買ってきて……。

芳賀 こう言っただけ失礼かもしれませんが、意外に地味というか、小さい魚ばかりなので驚きました。ボルネオ島に通って野生の熱帯魚を捕っていらっしゃる方があって、もっと大きな魚かと想像していたんです。

季子 例えばアロワナみたいな？（笑）。熱帯魚好きもふたつに分けられると思うんです。ペット感覚で飼う人はやはり大きくて見栄えのするものを好みます。もうひとつは生態を見たいという行き方。

こういう小さい魚やカエルとかを飼うのは大体そういう人ですね。

芳賀 そうか、それは季子さん自身の方向性でもあるわけですね。でも、わざわざ生息地まで行って捕って来るという人はそんなにいないでしょ。ボルネオにいらっしゃるきっかけのようなものはあったんですか？

季子 小学校にあがる頃から小学校の途中まで北海道に住んでいたんです。札幌郊外ですが周囲は自然そのもので、虫や魚、カエル、サンショウウオといった生きものを捕ってばかりいました。いつも昆虫図鑑を見ているような子どもでした。中学、高校とバイクにのめり込んだ時期がありますが、その熱も冷めた頃にまた生きもの好きが再燃したんですね。

熱帯魚を飼い始めて、ヨーロッパの図鑑を見ると日本には入っていない種がたくさんある。その中で学名スファエリクティス・バイランティという魚なんです、その生息地が西カリマンタン（ボルネオ島インドネシア領の呼び方）と図鑑に出ていたんです。じゃあ、そこに捕りに行こうと……。芳賀 その、バイナントかという魚がいるからって、それだけで行ってしまったの？

季子 ええ、すぐ行動してしまうタチなので（笑）。図鑑に別のどこかの地名が載っていたら、そっちに行っていたでしょうね。今から10年ほど前のことです。当時はインドネシア側のカリマンタンについてはほとんど情報がなかったんです。首狩族がいて危険だということで、外国人旅行者はほとんど入っていませんでした。それでも行ってみるとなんとかなった。そこで捕った魚を日本に持ち帰りました。熱帯魚を始めて間もない頃であまり認識もなかったんですが、相当珍しかったらしく専門雑誌から原稿依頼が来たり大騒ぎ。そんなつもりはなかったのに「その世界」でデビューしちゃったんです。

芳賀 それ以来、ずっとボルネオとおつき合いが続くことになったわけですか。偶然というか、運命的というか……。

季子 最近は年に1回ですが、最初の頃は年2回ずつ。行くと最低2カ月はいますから、通算すると2年以上カリマンタンで暮らしていますね。

芳賀 珍しい魚というのは、簡単に見つかるものではないでしょ？

季子 小さい頃から魚捕りをしていますから、自然の中で生きものが棲んでいるような場所というのは大体見当がつきます。バイランティにしてもベタにしても、大きな河ではなくて支流のまた支流というか、森の中の幅1メートルくらいのところに棲んでいるんです。海や河の広い

範囲にいる広域性の魚と違って、こういう魚たちは川筋ひとつ違うだけで種が違う。同じ川筋でも場所によって別の種がいます。それぞれ異なる特定の環境の中で他の生物と共生しながらいまの形になった。小さいけれど進化の頂点に立つ魚類なんです。僕が日本に初めて導入した種もありますし、それまで図鑑に載っていなかった種もいくつかあります。

芳賀 それって、新種ということですよ。大変な発見じゃないですか！

季子 ついこの間もシンガポールのラッフルズ博物館発行の学術論文誌に、僕が採集してヨーロッパの研究者に標本を送っていた魚が新種として記載されました。実はカリマンタンの生物、特に水の中に棲む魚類などは、あまり調査が進んでいないんです。アマゾンなどもそうですが、熱帯のジャングルでは調べればまだ新しいものが見つかるはず。魚類だけではなく昆虫や植物、キノコの類……。でも、そういう森でいま自然環境が急激に破壊されているんです。

芳賀 ボルネオといえば、マレーシア側のサラワク州の森林伐採で自然が破壊されたり先住民族の人たちの生活が追い詰められたりしていることは以前聞いたことがあります。

季子 サラワクは欧米で大きく取り上げられて関心が高いので、それなりに対策がとられつつあります。インドネシア側・カリマンタンの現状は知られていないだけで、自然破壊はもっとひどいかもしれません。僕が通出した頃は魚がたくさん捕れたい川が、次に行った時は砂だらけの荒地になっていたり、この10年間で多くの森が消えました。

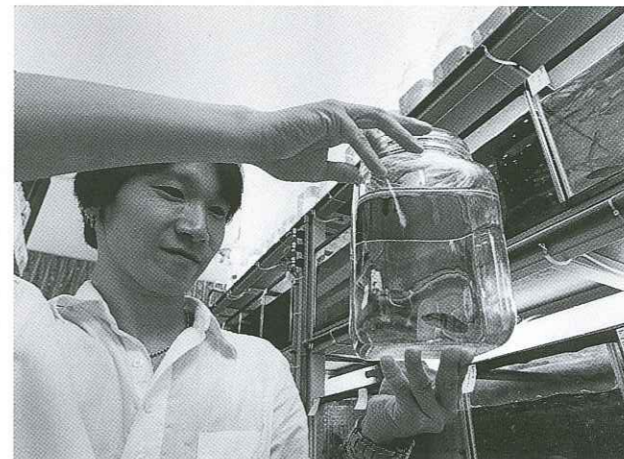
芳賀 それは、やっ

ぱり木材が目的？

季子 世界中、特に日本向けの材木になるのが多いですね。金やダイヤモンドを採掘するためのこともあります。伐るにしてもパッチ状に伐ってくればジャングルに戻りますが、広範囲で根こそぎ伐採すると表土が流されて元の植生が回復することは不可能です。僕も最初はただ魚を捕りに行っていたわけですが、自然破壊の現状を見るうちに、これは何とかしなければと……。学者やいろいろな人とコンタクトをとって標本を送るようになったのも、どんな生きものがいるのか、きちんとデータを残しておきたいからです。

芳賀 ことは小さな魚たちの運命だけじゃなくて、世界でいま起こっていることに関わっている。

季子 魚を捕って来て売る人間が何をいうかと言われそうですが、魚たちが生きていける環境を守ることは、その環境で生きる他の多くの生きものを守ることに必要です。非常に限られた環境に適応してきた生きものですから、その環境が破壊されたら他の場所に移すことはできない。絶滅するしかありません。すでに絶滅してしまった種も多いはず。個人の力でどうすることもできないもどかしさをいつも感じます。でも魚を通じてカリマンタンなど熱帯の森の現状を少しでも多くの人に知ってもらいたいと思って、立川のここを拠点に活動しているんです。



中島豆腐店	羽衣町 2-12-34 522-5732
フレッシュフルーツ 立川商店	羽衣町 2-30-6 522-3565
化粧品 OZAWA	羽衣町 2-31-1 522-3749
本・事務用品 泰明堂	羽衣町 2-31-1 522-3353
額縁 額縁専門店 プリムベール	羽衣町 2-32-6 528-6789
文具の ないとう	羽衣町 2-33-1 522-3677
テーラー 安武	羽衣町 2-33-11 522-4820
株式会社 西友 西国立店	羽衣町 2-40-1 524-5101
赤松タバコ店	羽衣町 2-42 524-7852
まごころ銘茶 狭山園	羽衣町 2-45-1 527-0146
美容室 ヒロイン 紅	羽衣町 3-2-4-1F 526-0018
蕎麦処 かめ井	羽衣町 3-2-17 524-8101
バスタビーノ はしや	柴崎町 2-1-6-B1 521-3386
明誠書房	柴崎町 2-1-11 523-6700
味乃 寿司 由	柴崎町 2-2-8 522-3733
株式会社 一心堂	柴崎町 2-2-16 527-3777
すがの歯科	柴崎町 2-2-16-2F 540-2675
紙匠 雅	柴崎町 2-2-19-1F 548-1388
ビストロすぎ浦	柴崎町 2-2-23-1F 525-9929
ステーキ&歐風料理 クワトロ	柴崎町 2-3-3 528-2983

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 羽衣町・柴崎町のお店です。

Casual Restaurant ラ・バンバ	柴崎町 2-3-3 524-5800
Pasta Frolla 立川南口店	柴崎町 2-3-3 540-8033
不動産 ユウ都市企画	柴崎町 2-3-13 528-2566
United Leaf	柴崎町 2-3-13 523-0799
甘味処 石や	柴崎町 2-3-15 524-0862
KIT'S SHOT BAR	柴崎町 2-3-20-2F 522-8718
不動産 コマツホーム	柴崎町 2-4-6 525-5811
喫茶 キャリー	柴崎町 2-4-7 528-2630
かみゆい処 わ	柴崎町 2-4-8 522-8202
芹沢ガラス店	柴崎町 2-4-8 522-3065
お茶・海苔 小室園	柴崎町 2-4-8 522-2894
ファッションハウス ホマレヤ	柴崎町 2-4-15-1F 525-2788
政治研究会 コスモ	柴崎町 2-4-15-2F 524-0104
ジョイフルプラザ スクエア	柴崎町 2-4-17-1F 528-4250
服地・洋裁材料 藤レディース	柴崎町 2-4-19-1F 528-5101
純中国料理 北京大飯店	柴崎町 2-4-19-2F 522-6393
田中星美堂薬局	柴崎町 2-5-3 522-3913
特むし銘茶・海苔 菊川園	柴崎町 2-5-6 526-2035
ジョイフルプラザ	柴崎町 2-5-8 529-2772
Cafe COLORADO	柴崎町 2-5-8 526-2285



春

作場はさし芽や小鉢への移植で早くも動き出す。

菊薫る季節。
とりわけ豪華な三本仕立ての大菊や小菊の懸崖^{けんがい}づくりはまさに芸術品だ。富士見町の芝田時次さんの菊づくり歴史は四十年以上になる。土づくりが始まり、さし芽、移植、整枝……花の種類や仕立て方によっても作業は異なり、一年中目が離せない。わが子を育てるように注ぐ愛が、今年も大輪の花を咲かせる。

庭のかなりの部分を占める芝田さんの作場（菊の栽培場）に、とりどりの菊が咲き始めた。春先から丹誠をこめてきた成果がいよいよ見えてくる。立川市菊花愛好会会長もつとめ、菊花大会で何度も総合優勝している大ベテランが、この時期は毎年同じように緊張するという。落ち葉を二年間熟成させた腐葉土、油粕と魚粉、米糠などを配合して発酵させて作る乾燥肥料……土づくりから時間をかけ、経験にもとづいた工夫を凝らす。さし芽や移植の時期、肥料や水の与え方、花を咲かせるために肥料を抜くタイミングなど、すべてが花の出来映えに影響する。

陶芸歴も三十年以上。作場の隣には窯もあり陶芸教室などで指導もしている。「やきものも難しいが、どっちが難しいかといえは菊の方がな？」。気候は年によってまちまちだし、同じ種類でも一株ごとに微妙に違う。小さな苗の頃から花が咲くまで気が抜けない。「美しく咲くのは菊の力。人間はそれを妨げないようにするだけだから……」。

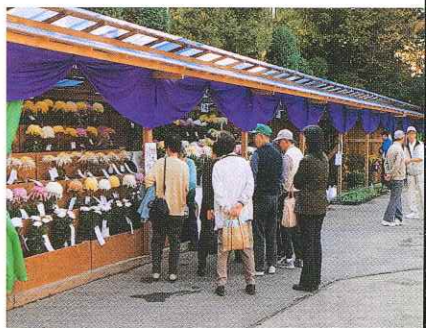
台風が近づけば鉢を屋内に運び込み、通り過ぎてからまた出す。重労働だ。そこまでして育てても、美しく咲いて人々を楽しませれば散ってしまふ。仮に賞をとっても報酬があるわけではない。さし芽で育てたたくさんの苗は、望む人がいれば分けてあげ、保育園の園児たちの菊づくりにも提供している。「情熱を傾けて何の見返りもない。菊づくりとは無償の行為。だから続くのかもしれないね」。

咲かせるのは、無償の愛

芝田時次さんの菊づくり四十年



写真：五来孝平



11月1日から1週間、諏訪神社で愛好家たちの菊が眼を楽しませる



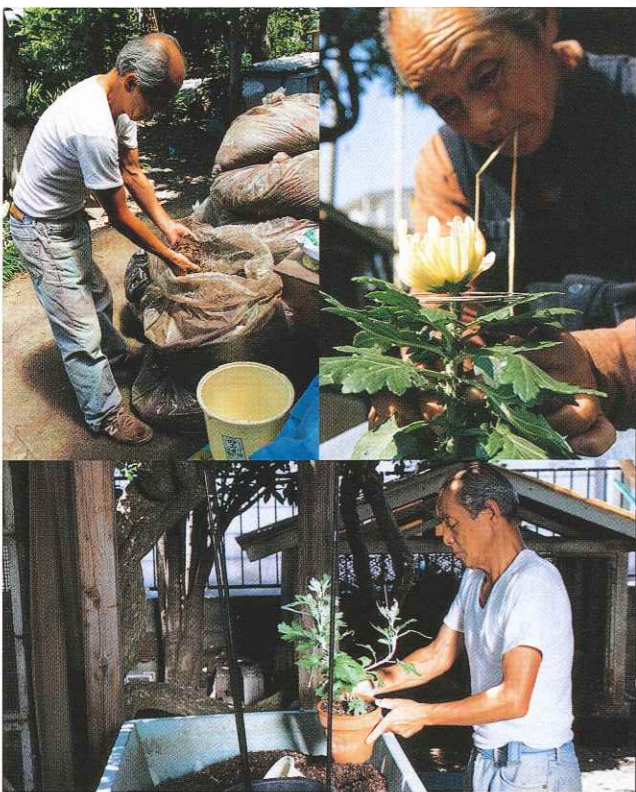
富士見町文化祭が開かれた海ノ上会館で



諏訪神社で開かれる菊花大会に出品する菊を積み込む

夏

暑い盛り最終的な大鉢への移植。肥料と水やりが難しい。



秋

今年の菊づくりも大詰め。台風情報が心配だ。

松本とも子さん(富士見町)

子どもの頃から宝塚に入りたかった女の子。その夢が舞台装飾の方へ。樹友の名を持つ草月流は中華道部以来の縁。立川女子高校は母校。平成7年アミュータちかわ「五月能95」能面・能装束・山野草の展示ディスプレイデザインをはじめ「松竹大歌舞伎」絵看板・いけばなも手がけた。昭和記念公園「第1回草月野外インスタレーション」参加、平成14年市民ミュージカルでの舞台美術と衣装デザイン、立川デザイン連盟「立川かるた」編集企画などボランティア活動に取り組み。現在新しい「未来の花」を創作中のタカラジェンヌならぬボランティアジェンヌ。

サンサンロード「akari」で 写真：細江英公

かたこと

まずお詫びと訂正です。10月号VIEWの写真キャプション「東京烏骨鶏のひな」とあるのは東京しゃものひな。東京烏骨鶏のひなはその2点上でした。10月も半ばを過ぎると秋も一段と深まります。山から紅葉の便り、平地も少しずつ色づき柿の実が明るく照る。自然は着実に季節を移します。菊の季節、見事に咲いた大輪の菊が目を楽ませてくれますが、それを咲かせるのは大変です。VIEWは菊づくり40年の富士見町・芝田時次さんをご紹介しました。農村では今年最後の収穫期。国営昭和記念公園「こもれびの里」の一年を連載している「われらの村暦」は、畑で作る陸稲(おかほ)の刈り取り。日本人が食べる米の量は減り続けているようですが、人々が存分に米の飯を食べられるようになったのは、それほど昔ではありません。水の乏しい土地で米を作りたい。陸稲に込められた願いは切実です。食べ物を生む土地と作り手をないがしろにして人類の未来は見えません。対談をさせていただいた季子宏之さんは、ボルネオの熱帯雨林に住む熱帯魚を通して、急激に破壊されつつある自然環境問題と向き合っています。遠い南の国で起きていることが私たちの暮らしとつながっている。考えさせられます。(芳)

スタッフ 編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子 デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES) AMNET design factory 写真 五来孝平/宮保大輔

えくてびあん(C) 11月号 第24巻 通巻252号 平成17年11月1日発行 発行 えくてびあん編集工房 〒190-0012 東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065 編集人 芳賀敏博 発行人 加賀悦也 印刷 (株)大廣社 無断転載を禁じます。

◆ タチカワ誰故草 ◆ 秋とちぎれる人

森 忠明

本誌前編集長・立井啓介氏(俳号馬翔)の作である。氏にはたぐさんの名句があるが、私は殊にこの一句が好きなのだ。「家宝にしますから短冊に書いてください。」 図々しくおねだりしつづけて約五年。昨秋、月見の頃、円い額縁入りの色紙がクロネコヤマトによって拙宅に届けられ、私は驚喜、さっそく壁に掲げて独り盃を傾けた。

昔から秋が心に適った。富士見保育園の昭和29年度修了記念アルバムには、松組六歳の私が木製すべり台の上でポーズを作り、行く秋を惜しんでいる一葉が載っている。野村園長夫人、保母の浜中、小岩井、森田、市川、宮本、諸先生に連れられていった農業試験場。そこに降りつもった銀杏の葉っぱと戯れた日。あれ以上のエクスタシーは爾来五十二年、一度も無い。 ことし平成十七年は、「新古今和歌集」の真名・仮名両序が執筆された元久二年よりかぞえて頂度八百年。大学時代に佐伯梅友名誉教授の古今集講義に一度しか出たことがない私ゆえ、えらそうなことは言えないけれど、古今より新古今が好きだ。中でも秋歌と哀傷歌に忘れられないのがある。

たれをかも待乳の山のをみなへし



挿画：野崎義成

「秋には、この金、働いてお返しします。」 そんな格好いいセリフを、サンサンロードに面した店ジョナサンで吐いたのは、神戸から家出してきた詩人・中田満(二十歳である。彼のことは第9回の「取り残される快楽」でチラッと紹介した。ハイティーンの森少年が書いた詩「母捨記」を、映画だか何だか知り、家出する前に大量の自作詩と自作曲入りCDとイラスト類を私に送りつけ、評定を求めたのだった。へ小生にはプロの物書きになった弟子が十人おりますが、その十人が現れた時にみせた才能以上のものが貴君にはあります。焦らず急がず、お互いに勉強いたしましょう」と返信したのが昨夏のこと。そして今春、四月六日の深夜、根川の桜を見物、いい気分帰ってくる郵便受けに紙片あり。立川ホテルに居ます。中田。 たゞそれだけ。 神戸少年Nのアポなし急襲に、いささかの責任を感じて駆け付けると、六尺瘦身、宮澤賢治と中原中也を合わせたような顔の詩人が出てきた。堺市で焙接工の訓練を受けていたが、突然(立川へ行こう!)と決め、所持金もわずかなのに大阪発夜行バスに乗り込んだのだと言う。「オ、オレはねえ、才能は認めたくせぬ、出でたら面倒みるなんて約束してませんよ。とりあえず金貸すけど、いつか返せよな。」 私は自分の狭量さに深く滅入った。

秋とちぎれる人ぞあるらし 小野小町

えくてびあん流

笙とアコーディオンは親戚? 今年も古民家園コンサート

立川市の有形文化財・小林家住宅で古典と現代、東洋と西洋を融合した音楽を楽しむ—今年で4回目になる古民家園コンサートが9月18日、中秋の名月の下で開かれた。市民団体が主催し、芸術監督は今年2月まで砂川に住み現在はドイツ・デュッセルドルフを拠点に活躍する作曲家のペーター・ガーンさん。今回は雅楽に使われる古代からの楽器である笙と、ドイツで19世紀に生まれたアコーディオンという異色の組み合わせ。日独の若い女性奏者が共演した。 形も時代も違う楽器だが、何本もの管に空気を吹き込んで音を出す原理は一緒。日本からロシア経由でヨーロッパに入った笙をヒントにアコーディオンが生まれたという説もあるのだとか。実際、エーファー・ツェルナー



さんのアコーディオンと豊 明日美さんの笙の響きは、曲によってはどちらがどちらなのか、聞き分けられないくらい似ている。バロックや雅楽の古典の他、この日のためにガーンさん、田中吉史さんが作曲した現代曲が演奏された。演奏家にも聴衆にも、スリリングな体験だった。

この人この店

江戸蕎麦 由庵

小峯由香さん



多摩都市モノレールの砂川七番駅から五日市街道を西に歩くと、すぐに見えてくる「そば」の旗。この旗がなければお店に気づかず通り過ぎてしまいそう。それもそのはず、ここは小峯さんのご自宅です。こんもりした庭木の奥にある玄関も、通された広いお部屋も普通のお宅に来たみたい。「自分の家になるようにくつろいでいただきたい。それがコンセプトなんです」と小峯さん。実は小峯さん、ご自宅が開業する前は立川駅近くのデパートに10年お店を出していました。レストラン街のお店ではなかなかできなかったお客様との関わりを大切に、全面的に協力して下さるお母様と二人三脚のお店作り。いただいた鴨せいろ、シャキッとしたそばの食感をやさしく包む鴨汁が印象的です。「そば屋はそばがメインでしょ?」とご自分の写真を拒んでいらっやいましたが、いえいえ、そばの味は作り手の味。この人があってこの味なんです、小峯さん。



鴨せいろ 1200円 大盛りは200円増し



〒190-0004 立川市柏町3-14-2 TEL 042-536-2623 営業時間 11:00~14:00 18:00~21:00(ラストオーダー) 定休日 水曜日

写真撮影：五来孝平

立川と多摩地域がもっと楽しいホームページ 多摩てばこ ネット http://www.tamatebako-net.ne.jp/ 多摩てばこネット編集工房 〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F tel 042-548-9606 fax 042-548-9609 e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄 真如苑 真如苑提供番組くじょうくがじょう> スカイパーフェクトV 216ch、マイ・テレビ 84ch 土 曜 午前9時~9時15分 午後7時15分~7時30分 再放送/火曜 午前9時~9時15分 午後7時45分~8時 放送時間は予告なく変更する場合がございます。 立川に育てられて六十九年 真如苑 柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

特報 CINEMA CITY カリシネマシティ ウェブ予約 ポイントカード 11月、始まる 早売り プレミアクラブ

私たちは「と」のための会社です。 人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま…… いろいろなコミュニケーションがあります。 私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、行なっている会社です。 と 大廣社は、企画デザインから印刷加工まで自社内で行っています。 PLANNING・DESIGNING 1919-0022 PROCESSING・PRINTING 東京都立川市錦町5-17-13 大廣社 FAX.527-1949 042-527-1911 E-mail info@daikousya.jp



Standing River essay

群馬直美の“葉っぱの精神”④

消えたNTT

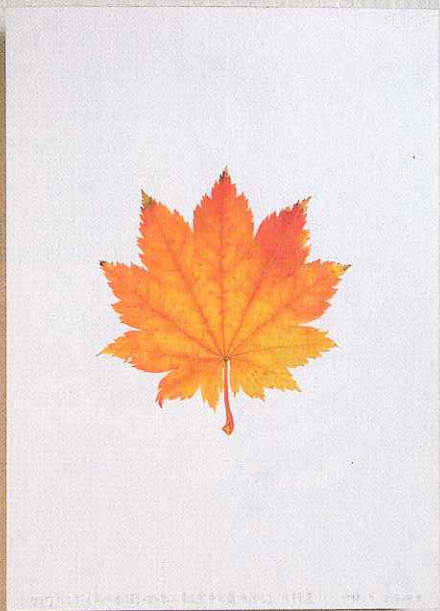
世 界中から青が消えてしまったという小説を読んだ。主人公以外、誰も気づかない。人々の心の中から、青が消え失せてしまったのだ。

切らした顔料を買いに行ったら見当たらない。問い合わせてもらおうと、十年前に製造中止になっていた。ちびちび使い続けていたので気づかなかった。こんなことが二度続いた。

東京駅のキオスクでガムを買ったら、レジスターで計算されてビックリ。ああ、麗しの暗算文化も消えてゆくのか。

立川からNTTが消えたのに気づいたのは去年のこと。——「電話帳が欲しいんですけど」「ここにはないよ。ここは光通信だから」。光通信じゃ、押し葉が出来ない。なんだか浦島太郎になった気分。

電話帳に葉っぱを挿みながら、「速さの違う時計を手に入れてしまったのかな？ 私は……」。いや。大海原をゆつたりたゆたう亀になって、木の葉の竜宮城に漕ぎ出でよう。亀の背中は広いので大勢乗れるよ。



1998年5月13日 ハウチワカエデ

紙/テンペラ